第１学年 生活科学習指導案

１　単元名　「いきものとなかよし」

２　単元の目標

○　虫を探したり飼ったりする活動を通して，生き物は生命をもっていることや成長していることに気付く。

【知識及び技能】

○　虫を探したり飼ったりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもって働き掛ける。

【思考力，判断力，表現力等】

○　虫を探したり飼ったりする活動を通して，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。

【学びに向かう力，人間性等】

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　虫の特徴，育つ場所，変化や成長の様子に気付いている。 ②　虫も自分たちと同じように生命をもっていること，成長すること，虫に合った世話の仕方があることに気付いている。	①　虫の変化や成長の様子に着目したり，虫の様子と自分たちの世話を照らし合わせて世話の仕方を見直したりしながら，世話をしている。 ②　世話をする中で気付いたことや虫に対する思い，自分自身の成長を表現している。	①　虫を育ててみたい，虫と仲良くなりたいという思いをもって，虫に関わろうとしている。 ②　世話を続けたことや虫との関わりが増したことに自信をもち，これからも生き物と関わろうとしている。

４　単元と指導の構想

(1)　単元と子ども

本単元は，学習指導要領解説「生活編」の内容（７）動植物の飼育・栽培「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもって働き掛けることができ，それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，生き物への親しみをもち，大切にしようとする。」を受けて設定している。

子どもの虫に対する知識や経験には差がある。園では，大勢で１つの飼育ケースの中の虫を飼育したことはあるが，一人で虫を飼育した経験はあまりない。現在も，虫が好きで家でも飼育している子どもがいる一方で，虫が苦手で全く触れられない子どももいる。これまでの学校生活では，バッタを見付けて捕まえたり，遠くに手から跳んでいくバッタの動きを追いかけたりして楽しむ子が多く見られた。虫が苦手な子は，自分から捕まえることはなかったが，友達が捕まえたバッタに興味をもち，声を掛けたりバッタをよく見せてもらったりしていた。その日の振り返りには，虫の大きさにびっくりしたことや少し触った感想が書かれていて，友達の影響を受けて，興味が広がってる様子が見られた。このような実態を踏まえ，本単元では，虫を飼育することにより，子どもが生き物への親しみを感じ，それぞれの子どもなりに愛着をもてるようにしたいと考えた。

(2)　指導の構想

①　子ども主体の学びの実現を目指した指導観・単元構成について

子ども理解を深め，子どもの興味や関心を探るために，常に一緒に活動しながら，子どもの思いや願いを拾うように心掛ける。虫に対しての思いや願いをなかなかもてない子どもには，一緒に活動したり，他の子どもがしていることに目を向けさせたりしながら，その子なりに活動し，学びを進めることができるように支援を行う。また，

その子自身が既にもっている知識や技能，経験を引き出せるように，園との情報交換を行ったり，日頃の子どもの見取りを丁寧に行ったりする。

単元導入では，虫を捕まえてきた子どもの話をきっかけにして，これまでに身近な虫を捕まえた経験を発表したり，虫に出会える身近な場所を教え合ったりして，虫への興味や関心を高める。子どもから出た虫に関する知識や世話の仕方などは，カードに書き出し，「虫さんお知らせボード」に貼ることで，クラス全体で共有，蓄積する。

虫の飼育が始まったら，朝の時間に１５分程度の常時活動を位置付けて，「毎日お世話の時間」を設ける。また，朝の時間だけでは，十分な世話ができなかったり，時間が足りずにやりたいことが実現できなかったりすることが考えられるので，週に１回程度，授業時間に虫の世話を行う時間として「じっくりお世話の時間」も設ける。飼育活動をする場所は，教室のすぐそばの低学年室とし，子どもがすぐに虫の様子を見られるようにする。

子どもは常時活動を通して，虫かごや虫の様子を写真に撮り，気付いたことや大切だと思ったことをその写真に書き込むことで記録を残していく。教師は子どもの記録を印刷し，単元導入で活用した「虫さんお知らせボード」に付け足すことで，個人の気付きをクラスで共有をする。

振り返りは子どもが新しい知識を獲得したり，既有の知識を更新したりするなど学びが深まったときに書くことにし，本単元では，「虫を捕まえた後」「虫を観察した後」「虫の世話をした後」に設定する。教師は日々の活動の中で見取ったことなども加味しながら声掛けやコメントを記入することで子どもの振り返りを価値付け，知識や技能，経験して活用して学んだことに対する有用性を自覚できるようにする。この振り返りについても，ワークシートに書いた振り返りの文章をタブレットで写真に撮り，ロイロノートに取り込む。

単元の最後には，ロイロノートに記録してきた飼育するポイントを「虫の飼い方デジタル図鑑」としてまとめ，図書館に置いてもらい，全校の子どもに読んでもらえるようにする。常時活動の記録を残す際に，活動のゴールを子どもに示すことで，意欲をもって記録ができるようにする。

②　教師の働き掛けについて

虫さんお知らせボード

虫について知っていることやそれぞれの虫の特徴，世話の仕方などについて，カードに書き出し，そのカードを KJ 法で整理しながら教師が一枚のボードに貼ってまとめていく。単元の初めでは，子どもが想起したこれまでの経験や知識を整理するのに使う。活動の途中では，虫の種類ごとにボードを分け，子どもが世話をする中で気付いたこと，それぞれの虫の特徴，育つ場所，変化や成長の様子，世話の仕方などについて分類・整理しながら貼っていく。単元の終わりでは，活動を通してたくさんのことに気付いたこと，自分たちの学びの姿を，「虫さんお知らせボード」に貼られたカードの多さによって視覚的に子どもに自覚させたい。さらに，単元の初め，活動の途中でカードの色を変え，気付きの変容が分かるようにする。

教師の声掛け

子どもが虫を観察したり，世話の仕方を試行錯誤したりする際には，子どもの思いに寄り添い，これまでの学びをつないで活動する姿を引き出したい。子どもにこれまでの知識や技能，経験を想起させるように，「前はどうしていたかな。」「どうしたらうまくいったの。」と問いかける。また，子ども自身が学びのつながりをより自覚的できるように，「どこからそう思ったの。」と考えの根拠を引き出す。さらに，気付いたことや考えたことに自信をもって活動できるよう，「なるほど。」「いいね。」と認めたり価値付けたりする。

環境構成

自分の飼育ケースで虫を飼育する。飼育活動をする場所は，教室のすぐそばの低学年室とし，子どもがすぐに虫の様子を見られるようにする。近くに自分の飼育ケースがあり，虫を見たり世話をしたりすることができる環境を整え，自分の虫への愛着を深めさせたい。

教室には，虫の飼育の仕方の本や図鑑を図書館から借りて棚に並べておき，子どもがいつでも読めるようにしておく。

５　単元の指導計画（全１２時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価			
		知	思	態	評価規準
１	○虫について知っていることを出し合い，虫を捕まえてみたいという意欲を高めることができる。 ・虫捕りの経験を発表し合ったり，虫と出会える身近な場所を教え合ったりする。 ・虫をとりたい，虫をつかまえようというめあてをもつ。 ・虫を捕まえるのに必要な準備について話し合う。			○	態①自分の経験を話したり，友達の話を聞いたりして，身近な場所で虫に関わろうとしている。
２・３	○公園で虫を探し，捕まえることができる。 ・公園に出かけ，虫を探したり捕まえたりする。 ・今後どうするかを話し合う。			○	態①虫を見付けたい，捕まえたいという思いをもって，虫に関わろうとしている。
４	○虫にあった世話の仕方があることに気付くことができる。 ・虫の飼育方法を本やタブレットで調べる。	○			知②本やタブレットで自分が調べたことから飼育する虫に合った飼育の仕方があることに気付いている。
５	○虫に合わせた餌やすみかを考えることができる。 ・虫を長生きさせたいというめあてをもつ。 ・自分が飼う虫に合わせた餌やすみかを準備する（じっくりお世話の時間）。		○		思①調べたことや経験をもとに，飼育する虫にあった餌やすみかを用意している
６	○虫を観察し，気付いたことを伝え合うことができる。 ・自分の虫を観察する。 ・体のつくりや動きなど，気付いたことを伝え合う。	○			知①虫の種類ごとに体の特徴があることに気付いている。
７（本時）	○虫が長生きできる環境について考えることができる。 ・虫が長生きするために必要なことを話し合う。 ・自分の飼育ケースの環境を整える（じっくりお世話の時間）。		○		思①虫に合った世話の仕方を友達と話し合うことを通して，調べたことや経験をもとにこれまでの世話を見直している。
８	○虫に合わせた餌やすみかを考えることができる。 ・自分が飼う虫に合わせた餌やすみかを準備する（じっくりお世話の時間）。		○		思①調べたことやこれまでの飼育経験から虫の様子に合わせて世話の仕方を見直している。
９・１０	○　自分の虫についてまとめることができる。 ・書き溜めてきたカードをまとめたり，これまでの虫との関わりを振り返って気付いたことや感じたことを絵や文で表現したりして，「虫の飼い方デジタル図鑑」をつくる。 ※国語「しらせたいな，みせたいな」の学習（１ｈ）と合科で行う。	○	○		知②これまでの世話を通して，虫に合った世話の仕方があることに気付いている。 思②これまで世話をする中で気付いたことや自分の虫に対する思いを表現している。
１１	○　完成した「虫の飼い方デジタル図鑑」を見せ合い，自分の飼育する虫をクラスで紹介することができる。 ・自分が飼育している虫と完成した「虫の飼い方デジタル図鑑」を，互いに見せ合ったり読み合ったりする。		○	○	思②これまでの世話を通して気付いた，虫に合った世話の仕方を表現している。 態②友達の発表を聞き，虫に関する興味が増し，これからも生き物と関わろうとしている。

１２	○　虫の今後について話し合い，どうするのかを決めることができる。 ・虫をこれからどうするのか話し合い，元いた場所に帰したり，家で飼育を続けたりする。 ・単元を通して学んだことを，他に生かさせそうなことは何かを考える。			○	態②継続して世話をしてきたことや自分の虫への愛着が深まったことに自信をもち，これからも生き物と関わろうとしている。

６　本時の計画（７時間目／全１２時間）

(1)　本時のねらい

虫を長生きさせる飼育方法について，虫の変化や成長の様子に着目したり，虫に合わせた世話の仕方を話し合ったりすることを通して，改善する方法を考えることができる。

(2)　本時の構想

【働き掛け①】

飼育している虫の種類ごとに活動できるように場を工夫する。

自分の虫に合った飼育方法の工夫を自覚しやすくするための働き掛けである。同じ種類の虫を飼育している子ども同士が近くで活動できるように，教師が意図的に座席や活動場所を決める。子どもは，飼育ケースを見せ合ったり，長生きさせるための工夫を教え合ったりする。なお，複数の虫を飼育している場合は，子どもがどのグループで活動をしたいのか決めることとする。

【働き掛け②】

飼育方法の理由を問い，価値付ける。

これまでの知識，経験を想起させるための働き掛けである。子どもは，長生きさせるために飼育方法を工夫する。しかし，飼育方法の工夫は無自覚で行われていることも多い。そこで，「なぜその飼育方法にしたのか」を問う。すると子どもは，これまでの知識，経験を想起して虫に合った世話の仕方であると発言する。このような発言が見られたら，価値付ける。

【働き掛け③】

子どもの気付きをマトリクスで整理する。

子どもが気付きを関連付けやすくするための働き掛けである。まず，どのような世話をしたのかを問う。子どもは，「すみか」や「えさ」の工夫について話す。その発言を分類しながら整理していく。このとき，本時のねらいである「長生きさせるための世話の工夫」につながる発言は色を変えて書く。さらには，虫の種類は違っても共通する「世話の工夫」については，線で結び付けておく。

【働き掛け④】

虫が生息していた場所の写真を準備し，子どもの発言に合わせて提示する。

虫に合った世話の仕方に気付きやすくするための働き掛けである。虫に合った世話の工夫をするためには，虫が生息していた場所に近付けることが必要となる。子どもは，教師の問い掛けによって世話の工夫の理由を説明する。その際，子どもの発言に合わせて虫が生息していた場所の写真を提示する。こうすることによって，写真からも世話の工夫に気付きやすくなる。なお，この働き掛けは導入から展開までの間で必要に応じて行うこととする。

(3)　本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される子どもの反応	■評価規準 ○留意点
導入 1．飼育をする中で生まれ	T1　休み時間に虫の世話をしているときに，困ったことがあると先生に教えてくれた人がいました。	○「虫さんお知らせボード」や活動写真を事前に教室に

た困り感を共有し，本時の学習課題をつかむ。（5分） **学習課題**	C1　ダンゴムシを飼っているけど，すぐに死んでしまうので困っています。 T2　同じような困っていることがないかグループで話してみましょう。 C2　僕のバッタが，前に死んじゃって悲しかったな。 C3　この前，友達に世話の仕方を教えてもらったよ。おかげで今は元気だよ。 C4　僕の虫はずっと元気に生きているよ。 T3　クラスの中で世話が上手くいっていない人がいるみたいですね。どうしたら長生きできるか，みんなで考えてみましょう。 虫が長生きできるにはどうするといいのかな。	掲示し，子どもが見られるようにする。 【働き掛け①】
展開 2. 困っている友達のすみかを見て，どうするとよいかをクラスで話し合う。（10分） 3. 自分の虫の世話をする。（15分） 4. 世話について考えたことをまとめる。（10分）	T4　飼い方で困っている友達のすみかです。どうすると長生きさせることができると思いますか。 C5　もっと，土を入れるといいです。 T5　それは，どうしてですか。 C6　だって，土がないと，かわいそうだからです。 C7　もともと土がある所で住んでいたからです。 T6　他にどうするといいと思いますか。 C8　ダンゴムシが，住んでいた所みたいに枯れ葉や石を入れるといいです。 T7　すみかの中を，ダンゴムシが住んでいた所みたいにするといいんですね。自分のケースを飼っている虫が長生きできるようにしてみましょう。 C9 霧吹きをするといいって本に書いてあったな。 C10 草を入れておこう。 C11 僕のケースは3匹くらすには小さいから，もっと広いケースにしたいな。 T8　どんな世話をしましたか。また，どんな世話をしようと思いましたか。 C12　友達の霧吹きを借りて，土を湿らせました。土がからからに乾いていたけれど，ダンゴムシは湿った土の所にいたからです。 C13　友達がペットボトルのキャップに水を入れていて，いいなと思いました。バッタものどが渇くと思うから，私もペットボトルのキャップで水をあげたいです。 C14　友達が「隠れ家を作るといいよ。」と教えてくれました。確かに，友達のコオロギは隠れ家によく入っています。隠れられると安心するのかなと思いました。ぼくもやってみたいです。 C15 僕は虫をたくさん飼っているのでもっと大きなすみかにしてしてあげたいです。 T9　お世話をして虫さんは喜んでいると思いますか。 C16 喜んでいると思います。 T10 虫が長生きするためには，すみかの中をどうするとよかったですか。 C17 すみかの中を，虫が住んでいた所みたいにするとよかったです。 C18 毎日，虫の様子を見て，世話をすることも大切です。	○すみかの写真をロイロノートの画面共有をし，子どもが手元で見られるようにする。 【働き掛け②】 【働き掛け③】 【働き掛け④】

まとめ	虫が住んでいる場所みたいにするとよい。 毎日，虫の様子を見てお世話をするとよい。	
終末 5. 学習を振り返る。 （5分）	T11 今日やったこととそのわけ，これからも虫さんに喜んでもらうためにしたいことを，振り返りカードに書きましょう。 C19 ケースに草を増やしました。なぜなら，バッタがいたところはたくさん草が生えていたからです。バッタさんに喜んでもらえるようにケースをきれいにしたり，草がなくならないように草を毎日足したりしたいです。 C20 ケースに枯れた葉っぱを入れました。なぜなら，ダンゴムシは枯れた葉っぱも食べるからです。これからもダンゴムシさんに喜んでもらえるように世話を忘れずにしていきたいです。	■虫を長生きさせる飼育方法について，虫が元いた場所の環境を思い起こしたり，友達の虫の飼育環境と比べたり，これまでの経験や本や図鑑からの知識を生かしながら，改善することを決めている。

(4) 評価

虫を長生きさせる飼育方法について，虫が元いた場所の環境を思い起こしたり，友達の虫の飼育環境と比べたり，これまでの経験や本や図鑑からの知識を生かしながら，改善することを決めている。（発言，世話の様子，振り返り）

7 参考文献

国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 東洋館出版社 2020年